

令和7年度 大阪市 英語教育改善プラン

4技能5領域を総合的に育成するとともに、コミュニケーションを図る資質・能力の向上を図る。

目標

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力 (専科教員含む)
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用 (AIを除く)
 ☐ AIの活用
 ☐ その他 (パフォーマンステスト含む)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 児童の英語力の向上
大阪市小学校学力経年調査（英語）において、平均正答率の対全国比に向上が見られる。

	R5 5年生	R6 6年生
大阪市	82.3%	76.2%
全国(参考)	80.8%	72.7%
対全国比	1.01	1.04

- ② 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が高い。
(R5英語教育実施状況調査:92.6%)
- ③ R6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、「英語の勉強が好き」と肯定的に回答した児童の割合が増加
(R5:71.2%⇒R6:71.9%)

改善が必要な点

- ① CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合が、昨年度と比べて1.2ポイント上昇したものの、さらに改善が必要
(R5英語教育実施状況調査:3.9%)

2. 要因分析

- ① 外国語活動・外国語科に加え、全小学校1～6年生において、短時間モジュール学習の継続した取組が、児童の英語力向上につながったと考えられる。

- ②③ 外国語指導巡回訪問や専科加配教員研修等により、教員の授業改善が進んでいると考えられる。

- ① 英語で授業を行おうとする教員は徐々に増えているものの、英語力向上のための自己研鑽の時間が不足しており、依然として左記の割合が低い状況が続いている。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 全小学校において、「小学校低学年からの英語教育」（短時間モジュール学習/本市独自）の実施
※ 週複数回/週あたり計20分以上

参考URL
(R6大阪市小学校学力経年調査結果)
<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000630426.html>



- ②③ 英語授業力向上推進チーム（本市独自）の指導教諭等が、各小学校を巡回訪問し、研修や指導助言等を通して、教員の授業改善を推進

- ① 指導者対象英語力向上研修の実施
夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設（2コース×4日）

一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

一定の英語資格を有する受験者には、申請によりテストの合計得点に加点（英検,GTEC(CBT), IELTS,TOEFL (iBT), TOEIC(LR)）

令和7年度 大阪市 英語教育改善プラン

4技能5領域を総合的に育成するとともに、コミュニケーションを図る資質・能力の向上を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：57.5％⇒R7：58.3％）

目標

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が昨年度と比べて3.2ポイント上昇
(R5：54.3%⇒R6：57.5%)

参考URL（R6大阪市英語力調査結果）

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kyoiku/0000644655.html>



- ② R6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、特に「1、2年生のときに受けた授業で、（即興で）自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動が行われていた」と肯定的な回答をした生徒の割合が増加
(R5:58.6%⇒R6:70.1%)

改善が必要な点

- ① 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が低い。
(R5英語教育実施状況調査:57.3%)
- ② CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合が低い。
(R5:37.8%⇒R6:39.9%)

2. 要因分析

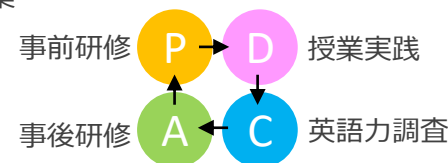
- ① 授業改善プログラムを実施したことで、教員の授業改善及び生徒の学習改善が進んだと考えられる。

- ② 授業改善プログラムを実施したことで、教員の授業改善が進み、特に「話すこと[やり取り]」の指導が改善されたと考えられる。

- ① 学校や教員間で、言語活動を行う時間に差が見られる。
- ② 英語力向上のための自己研鑽の時間が不足しており、依然として左記の割合が低い状態が続いている。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② 大阪市英語力調査（4技能型外部テスト）を活用した授業改善プログラムにより指導のPDCAサイクルを構築



参考URL

（大阪市教育振興基本計画の情報誌第5号、第10号参照）

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000623771.html#jouhoushi>



- ① 効果的な言語活動をテーマとした研修の実施や指導法に係る情報・教材をポータルサイト等に掲載
- ② 指導者対象英語力向上研修の実施
夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設（2コース×4日）

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

大阪市教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		55.9	54.3	55.9	57.5	58.3		59.1		60.0
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		75.0	57.3	62.3		67.3		72.3		77.5
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		90.1	59.6	87.0		91.3		95.6		100.0
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0
		公表(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0
		達成状況の把握(%)	100.0	70.3	77.7		85.1		92.5		100.0
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50.0	37.8	40.8	39.9	43.8		46.8		50.0
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		75.0	34.1	43.9		53.7		63.5		73.3
		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	100.0	71.6	78.7		85.8		92.9		100.0